



東京湾スズキ漁による生息地・生態系への影響の分析

2021年7月21日

概要

3年次監査の時に示唆された東京湾でのスズキまき網漁による環境への影響として操業中に網が海底に着底した時があげられた。ここでは、実際の着底の頻度と、着底した時の海底の状況を確認する。

目標

1. 着底の頻度計算
2. 網の付着物から海底の状態を確認し、影響の度合いを判断する
3. 漁具ロスの確認

結果報告

モニタリングが行われた2020年の3月から2021年の6月にかけて、月毎の着底の確率は平均して2.5%であった(520投網中、13件)。着底した頻度は季節性が強く、冬の操業時、網を深く設置するときに着底が増えた(表1)。記録された付着物によると泥やガラであり、海底構造物があるようなものは付着せず、網も無傷のため、海底へ与える影響は最小限であると推察される。また、モニタリング期間中に漁具の破損はあれども、着底による漁網の破損と思われるケースは1件であり、海底生息域に対する影響は極めて少ない。尚、漁網の損失はなかったため、ゴーストフィッシングの可能性も無いと結論付けられる。

年-月	投網回数	着底回数	着底による漁網の破損
2020-03	1	0	0
2020-04	13	0	0
2020-05	40	0	0
2020-06	54	0	0
2020-07	48	0	0
2020-08	80	0	0
2020-09	50	2	0
2020-10	26	3	0

2020-11	39	7	0
2020-12	13	1	0
2021-01	13	1	0
2021-02	休漁		
2021-03	23	0	0
2021-04	15	1	0
2021-05	40	0	0
2021-06	64	2	1

今後の対応

操業による海底環境への大きな影響は見受けられなかったため、引き続きモニタリングの継続、一年ごとの定期的なレビュー、そして着底頻度に変化があった場合に対策を専門家と構築することを推奨する。